

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

運動負荷試験を行う際、体調不良を伴う場合は被検者になれないため事前に申告すること。

<履修について>

内部障害理学療法学演習は、受講者を2つのグループに分け、それぞれのグループに担当教員を配置し実施する。

グループ分けとそれぞれのグループの講義順は初回の授業までに示す。

《担当者名》○澤田篤史 泉唯史 高橋尚明 多田菊代

【概 要】

内部障害理学療法学で習得した知識をもとに、理学療法評価とリハビリテーションアプローチの基本技術に関して、演習を通じ身につけることを目的とする。理学療法評価については、個々の評価項目の意義や評価項目間の関連性を理解したうえで評価を実施、結果を統合解釈し、介入プログラムの立案ができるようにする。また、リハビリテーションアプローチについては、徒手のアプローチや運動療法を学生相互に実習し、その基本手技や留意点などを学習する。さらに、各疾患に対するペーパーペイシエントを用いたグループワーク形式の演習を行う。

【学習目標】

一般目標

内部障害を構成する疾患・障害の基本的な理学療法評価および理学療法プログラムを作成し、実行できる能力を身につける。

行動目標

1. 背景にある病態踏まえて、必要な理学療法評価を抽出することができる。
2. 得られた評価項目から問題点を整理し、理学療法プログラムを立案できる。
3. 各疾患に応じた基本的な評価・理学療法手技を実践できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 }	自己検脈、血圧測定	・ 体表より触れることのできる脈波の触知	泉唯史
2		・ 血圧測定	多田菊代
3 }	12誘導心電図記録と計測、解釈	・ 12誘導心電図記録に伴う電極貼付と記録、解釈	泉唯史
4			多田菊代
5 }	モニター心電図記録と計測、解釈	・ モニター心電図記録に伴う電極貼付と記録、解釈	泉唯史
6			多田菊代
7 }	代謝計測（安静時代謝・運動時代謝）	・ 呼気ガス分析装置を用いた安静時代謝計測	泉唯史
8		・ 呼気ガス分析装置を用いた種々の運動負荷様式における運動時代謝計測	多田菊代
9 }	運動負荷試験とその解釈	・ 呼気ガス分析装置および血圧計測、心電図モニターを用いたプロトコールに基づいた運動負荷試験	泉唯史
10			多田菊代
11 }	症例検討	・ 循環器疾患に関してペーパーペイシエントを用いた症例検討演習を行う。	泉唯史
12			多田菊代
13 }	糖尿病に関する評価と治療手技	・ 糖尿病の障害構造分析と評価方法、治療手技について学ぶ。	澤田篤史
14			多田菊代
15 }	症例検討	・ 糖尿病に関してペーパーペイシエントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	澤田篤史
			多田菊代

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
16			
17)	乳がんに対する理学療法 周術期の身体介助	・リンパドレナージ、複合的理学療法 ・周術期の身体介助、リスク管理	澤田篤史 多田菊代
18			
19)	呼吸リハビリテーションに必要な評価	・バイタルサイン ・各種のフィジカル・エグザミネーション ・評価に伴う身体反応の考察	高橋尚明 澤田篤史 多田菊代
20			
21)	呼吸リハビリテーション手技	・周術期のリハビリテーションプログラム ・コンディショニング ・排痰法	高橋尚明 澤田篤史 多田菊代
22			
23)	呼吸リハビリテーション手技	・呼吸介助手技 ・酸素療法 ・ADL-ex ・運動療法の適応と実施方法について	高橋尚明 澤田篤史 多田菊代
24			
25)	呼吸リハビリテーション手技	・吸引の基本手技（ガイドライン）	高橋尚明 澤田篤史 多田菊代
26			
27)	人工呼吸 人工呼吸器を用いた演習	・人工呼吸器の仕組みと適応 ・人工呼吸器演習	高橋尚明 澤田篤史 多田菊代
28			
29)	症例検討	・呼吸器疾患に関してペーパーペイシェントを用いた症例検討演習を行い、検討会を行う。	高橋尚明 澤田篤史 多田菊代
30			

【評価方法】

定期試験85% レポート・授業内課題の提出15%

レポートは返却を行う。

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【備 考】

教科書：千住秀明 他 監修 「呼吸理学療法標準手技」 医学書院 2008年
松永篤彦 他 編集 「運動療法エビデンスレビュー」 文光堂 2018年

参考書：美津島隆 監修 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」 MEDICAL VIEW 2018年
西田修 監修 「早期リハビリテーションの実践 予後改善のためのアプローチ」 MEDICAL VIEW 2018年
亀田メディカルセンター 編集 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック 第3版」 MEDICAL VIEW 2017年
内部障害理学療法学の講義で紹介した参考図書
また、演習の中で内部障害理学療法学の関連分野に関わる参考書を適宜紹介していく。

その他：内部障害理学療法学の講義で配布し、使用した講義資料および講義ノートに適宜使用する。

【学習の準備】

1. この演習は、2年生までの解剖学、生理学、運動生理学および内科学などを基盤にして行われた内部障害理学療法学に基づいて行われるものであり、学習の準備としてこれらの授業ノートや参考書・関連図書を毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと（80分）。
2. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

【服装・必要物品】

1. 演習時には実習着で臨むこと。
2. 胸部を聴診する演習や胸部に電極貼付を伴うため、着脱のしやすい服装で臨むこと。
3. メジャー
4. 聴診器
5. その他、講義に必要な物は事前に説明する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、泉唯史（理学療法士）、高橋尚明（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域における実務経験に基づいて、実践的な知識・技術の習得を目指した講義を行う。